

2021.4.17 京機会中部支部総会 特別講演会

「あほなことせえ」

酒井 敏

京都大学 人間・環境学 研究科 教授

「あほなことせえ」40年以上前、京大に入ったばかりの私が何人もの先生から言われた言葉である。これは、卒業式には着ぐるみを着て出席せよ、という意味ではない。大学は「勉強」ではなく「研究」をすることである。研究とは人がやったことのないことをやって、新しい事実を発見することである。それは、世間の常識の中にはない。つまり、世間から「あほなこと」と思われることの中を探索する以外に道はない。

ところが近年、その「あほ」が許されなくなってきた。世の中に正義マンがあふれ、すべては「正しく」なければならなくなってきた。しかし、世の中に「正しい」ことがあるというのは幻想である。これまで、たまたまうまくいっていたことを「正しい」と思っているだけで、未来永劫絶対に正しいわけではない。したがって、現在の「正しい」ことしか知らなければ、それが正しくなくなった瞬間に絶滅する。

にも関わらず、大学には「正しく」研究教育をしろという圧力が止まらない。このままでは、日本は絶滅する。この流れを変えるには企業の考え方を変える以外にない。なぜならば、学生は企業が求める人物になろうとして、大学にそのような教育を求める。また、文科省は財界の求めに応じて「役に立つ」教育研究を大学に求め、それ以外には金を出そうとしない。この流れの源流は企業なのだ。

そこで、その「あほ」の重要性を世の中に広めるべく始めたのが「京大変人講座」である。対象は広いが、本命は企業の中で働く現役企業人。特に、京大にゆかりのある方々には「あほ」の伝道師として、ぜひ正義マンとの戦いに参戦していただきたい。

【略歴】

1980年3月京都大学理学部卒業。1981年3月京都大学大学院理学研究科修士課程（地球物理学専攻）中途退学。1986年5月京都大学理学博士取得。

1981年4月京都大学教養部助手。1990年4月京都大学教養部助教授。

2009年4月現職。

専門は地球流体力学で、1992年日本海洋学会岡田賞受賞。

「京大変人講座」を開講し、「フラクタル日除け」などのユニークな発明で、京大の自由な校風を地で行く「最も京大らしい」京大教授。

信条・座右の銘は「常識を疑え、教科書を信じるな。」